Care For Us

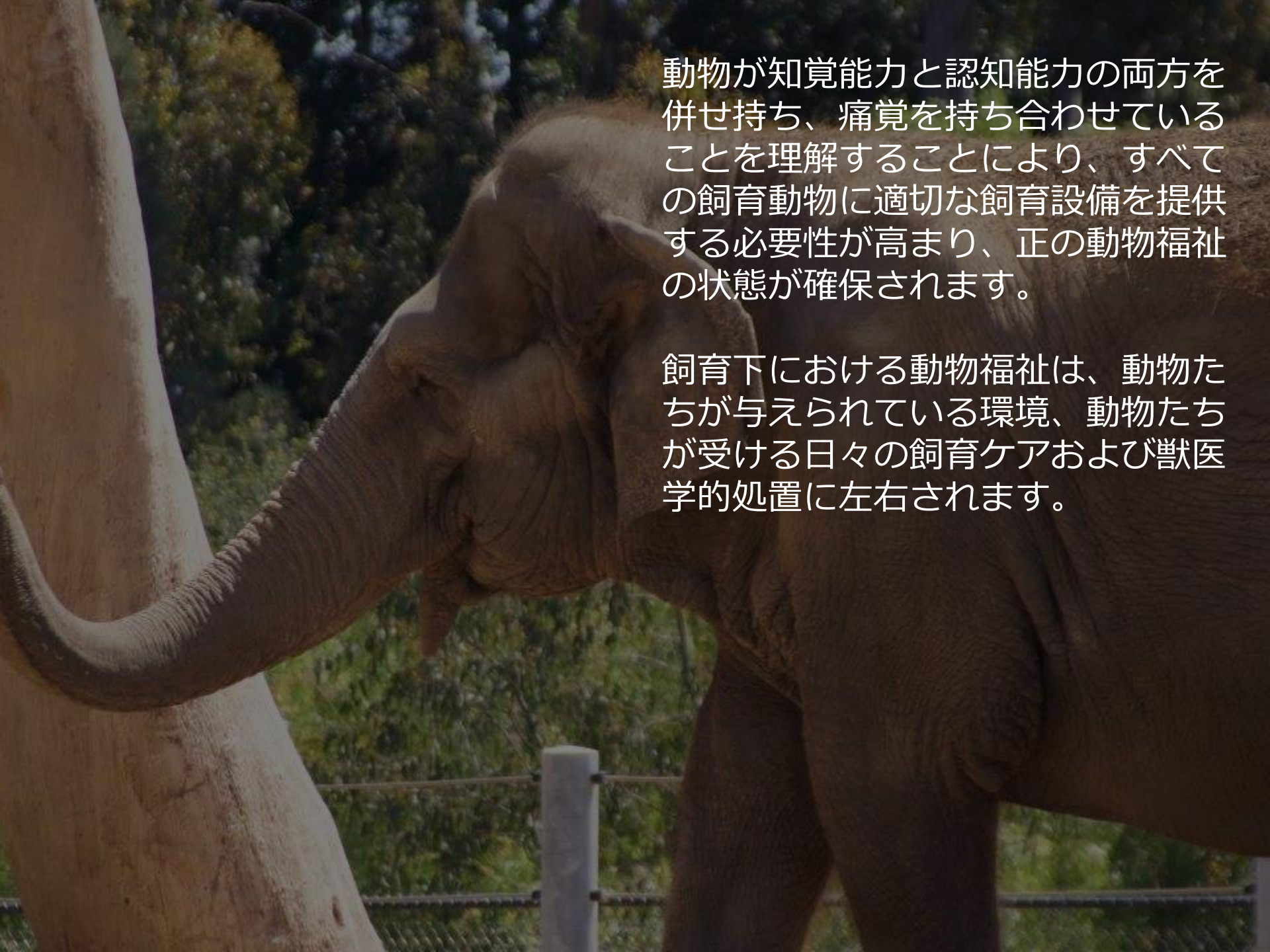
アジアゾウ (Elephas maximus)

動物福祉

動物福祉は、動物の状態や感情を
表すものです。動物福祉の状態には、
正、中立、負があります。

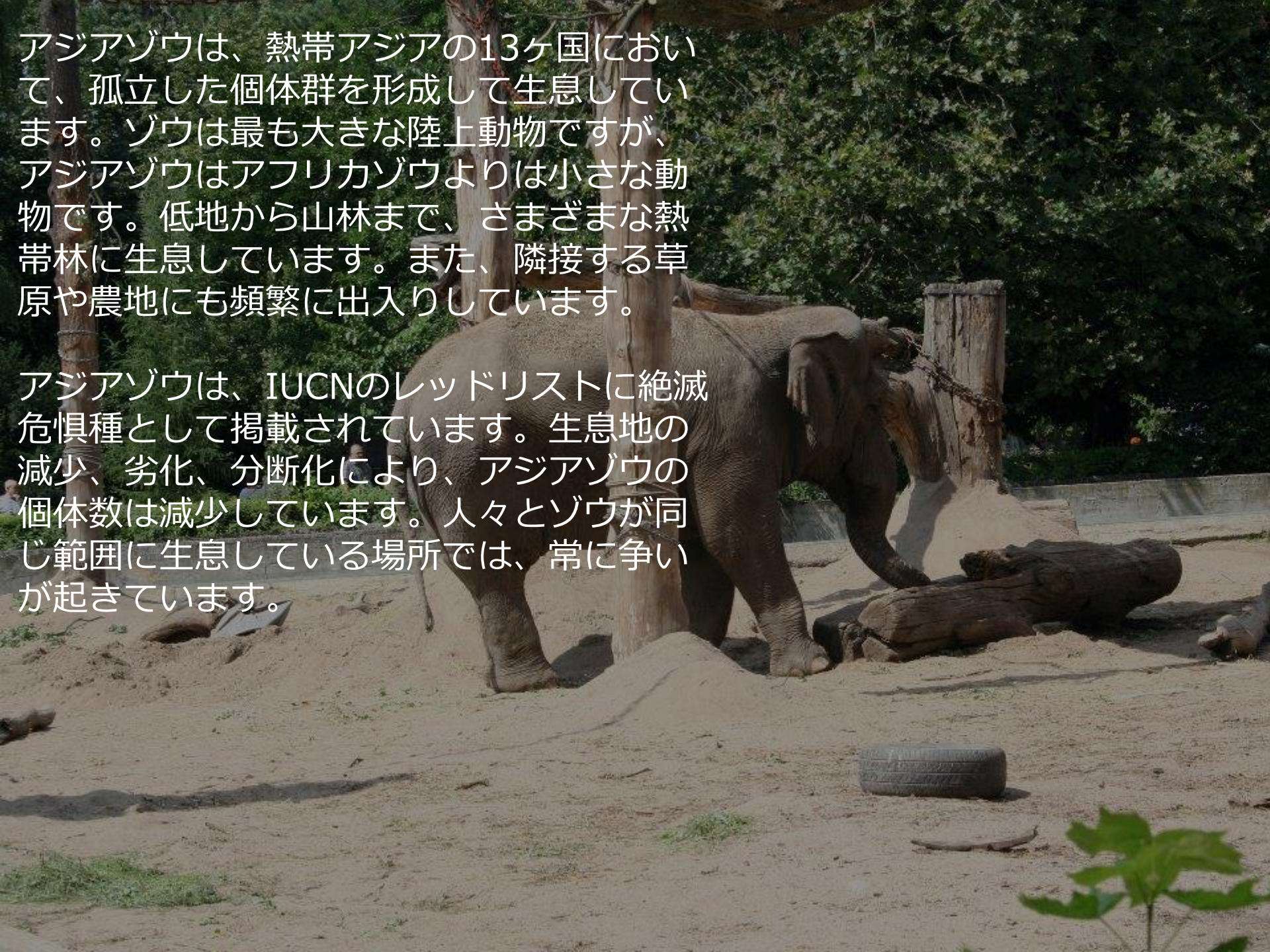
個体の福祉状態は、日々異なります。
栄養、行動、健康、環境といった
動物のニーズが満たされた場合、
正の動物福祉になります。

飼育下における良い一生とは、
動物が生涯を通じて、一貫して
良い福祉状態を経験することである
と考えられることもあります。



動物が知覚能力と認知能力の両方を併せ持ち、痛覚を持ち合わせていることを理解することにより、すべての飼育動物に適切な飼育設備を提供する必要性が高まり、正の動物福祉の状態が確保されます。

飼育下における動物福祉は、動物たちが与えられている環境、動物たちが受ける日々の飼育ケアおよび獣医学的処置に左右されます。



アジアゾウは、熱帯アジアの13ヶ国において、孤立した個体群を形成して生息しています。ゾウは最も大きな陸上動物ですが、アジアゾウはアフリカゾウよりは小さな動物です。低地から山林まで、さまざまな熱帯林に生息しています。また、隣接する草原や農地にも頻繁に出入りしています。

アジアゾウは、IUCNのレッドリストに絶滅危惧種として掲載されています。生息地の減少、劣化、分断化により、アジアゾウの個体数は減少しています。人々とゾウが同じ範囲に生息している場所では、常に争いが起きています。

ゾウはコミュニケーションが好きです

ゾウには、触れる、声を出す、匂いを嗅ぐ、姿勢を変える、などといった複雑なコミュニケーションのレパートリーがあります。ゾウは非常に触覚的な動物です。

ゾウは鳴き声や唸り声を出したり、うめき声をあげるなどして、音でのコミュニケーションをとります。その他に、数マイル離れたところまで届く超低周波音を発します。コミュニケーションをしたり、社交的に活動することは、ゾウにとって非常に重要なことであり、ゾウの複雑な社会や家族構成を支えています。

正の行動を促進するためにできること

群のゾウがお互いに触れ合えるようにしましょう。ゾウと家族の間に、さまざまな社会的相互作用がもたらされます。

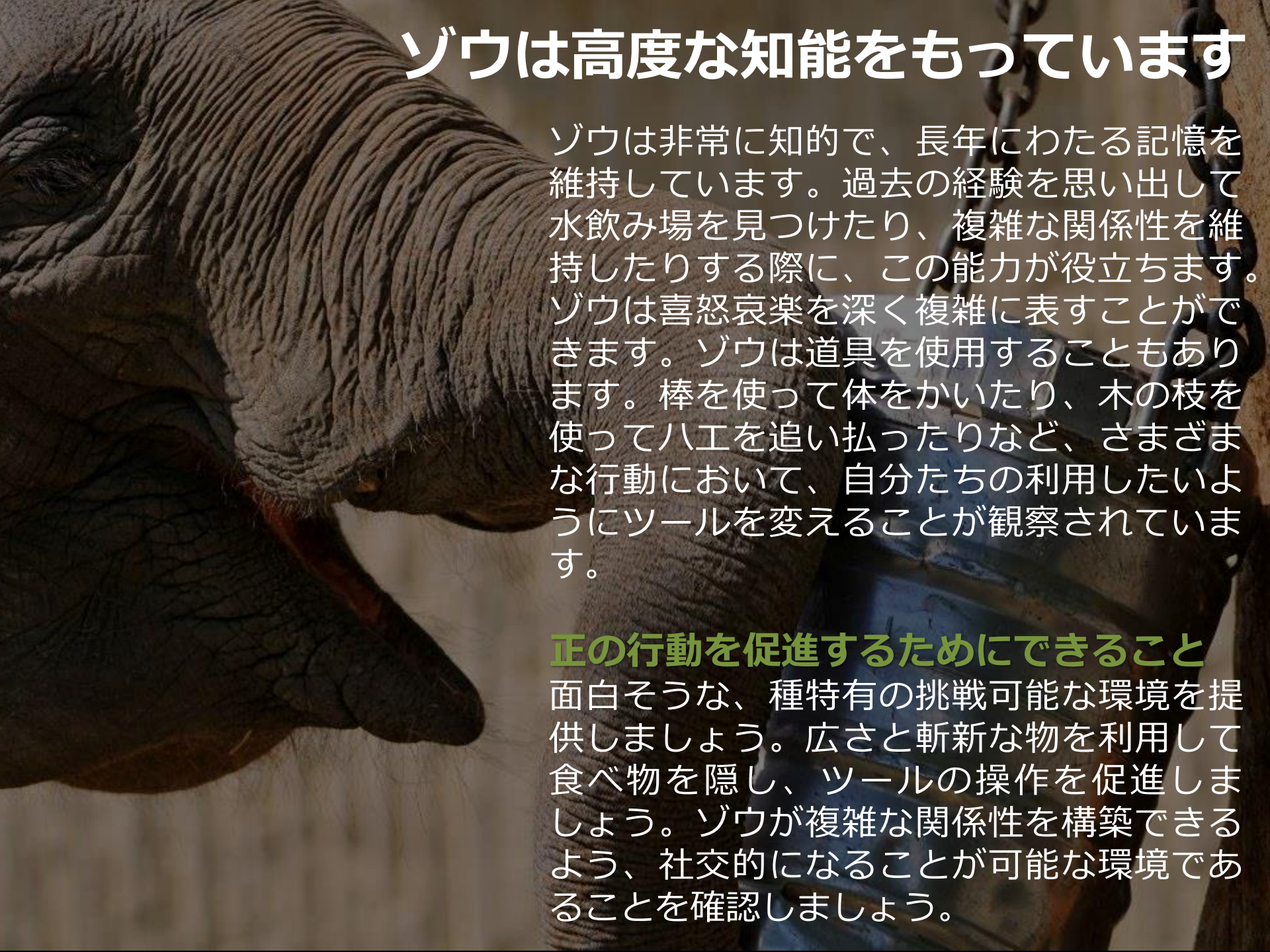
Flickr@Tambako The Jaguar

ゾウは食べることが好きです

ゾウは体長約6.4m、体高約3m、体重約 5トンまで成長します。ゾウにとって、食べ物は非常に重要です。木の根から草、果実、樹皮までなんでも食べ、一日に136kgを摂取します。必要とする食べ物を得るために、長い距離を歩き回ります。一日のうち16時間を食べることに費やし、鼻を使って食べ物を探します。

正の行動を促進するためにできること

飼育環境の中で、餌を食べる機会を増やしましょう。それにより、採餌と社交的な食事の機会が促進されます。



ゾウは高度な知能をもっています

ゾウは非常に知的で、長年にわたる記憶を維持しています。過去の経験を思い出して水飲み場を見つけたり、複雑な関係性を維持したりする際に、この能力が役立ちます。ゾウは喜怒哀楽を深く複雑に表すことができます。ゾウは道具を使用することもあります。棒を使って体をかいたり、木の枝を使ってハエを追い払ったりなど、さまざまな行動において、自分たちの利用したいようにツールを変えることが観察されています。

正の行動を促進するためにできること

面白そうな、種特有の挑戦可能な環境を提供しましょう。広さと斬新な物を利用して食べ物を隠し、ツールの操作を促進しましょう。ゾウが複雑な関係性を構築できるよう、社交的になることが可能な環境であることを確認しましょう。

ゾウは社交的な振る舞いが好きです

ゾウは非常に社交的な動物であり、メスのリーダーに率いられた家族でくらしています。成獣のオスは放浪する傾向があり、12-15歳頃になると家族から離れ、小さな若いオスだけの群れを形成します。時には、群れと群れが合体し、クラン（clan）と呼ばれる大きな群れをつくることもあります。
個体同士の関係性、および群全体での関係性は、個々のゾウの心身の健康にとって非常に重要です。個々のゾウの間で、生涯に渡る特別な関係性が構築されることもあります。

正の行動を促進するためにできること

ゾウを決して 1頭だけにしてはいけません。ゾウは常に明確な家族構成の中で管理されるべきです。ゾウを群れから外したり、群れに追加をしたりする際には、繊細な管理がされなければならない他、社会的相互作用が飼育下での優先事項と見なされなければなりません。

ゾウは遊ぶことがすきです

若いゾウは遊ぶことが大好きで、鼻を絡めあったり、鼻をつかってレスリングをしたり、相手の上に乗ったり、追いかけっこをしたり、地面に寝そべってごろごろしたりします。
6歳以上の子ゾウは、遊び仲間を形成します。メス、特に若いメスが子ゾウとよく遊びます。
子ども同士の絆は強いものです。群れにおけるメス同士の密接な関係を確立する上で、仮母をすることでの相互関係が重要な役割を果たす場合があります。

正の行動を促進するためにできること

飼育下のゾウの間での正の相互作用が常に起こるようにしましょう。また、関係性の構築を促進しましょう。

ゾウは自分の体をつかいます

ゾウは耳を使って熱を放射し、鼻を使って自分自身に水を吹きかけ、暑さをしのぎます。ゾウの鼻には約10万本の筋肉があり、嗅いだり、飲んだり、高音で鳴いたり、物をつかんだりと、数多くの異なる機能に鼻が使われています。鼻先にある、指のような機能は、小さな物をつかむ際に使用されます。

正の行動を促進するためにできること

正の相互作用や行動のために、ゾウが鼻や耳、体を使う物を設置したり、そうした機会をもつことのできる展示場をつくりましょう。プール、砂場、木の枝やおもちゃがあることで、ゾウによる環境利用が促進されます。

@Tambako The Jaguar

ゾウはまるで私たちのようです

ゾウは遊ぶことを楽しみ、若いゾウたちと密接な関係を構築し、泳ぎ、興味深いさまざまなものを食べます。

飼育下においては、ゾウが一生を幸せに健康に過ごせるよう、自然下での行動を再現するための努力を重ねなければなりません。

ゾウに関する更なる情報はこちらをご覧ください：
http://www.biaza.org.uk/uploads/Animal%20Management/Elephant%20Guidelines%202010.pdf